

項目	[凡例] ◎:実証項目 ○:参考項目 △:測定項目 (△):測定項目(報告書非掲載) ◇:個別の技術ごとに調整する項目	実証対象技術													屋根・屋上用後付技術				その他			
		窓用後付技術									屋根・屋上用後付技術				その他							
		窓1	窓2	窓3	窓4	窓5	窓6	窓7	窓8	窓9	屋1	屋2	屋3	屋5	他1							
		窓用日射遮蔽フィルム	窓用日射遮蔽コーティング材	窓用後付複層ガラス	窓用日射遮蔽ファブリックシート	窓用高反射率/日射遮蔽ブラインド	窓用日射遮蔽網戸	窓用日射遮蔽スクリーン	窓用日射遮蔽レースカーテン	窓用後付日除け建材	屋根・屋上用高反射率防水仕上塗料	屋根・屋上用高反射率防水シート	屋根用高反射率瓦	屋根・屋上用保水性建材	開口部用後付建材							
熱・光学性能	遮へい係数	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◎	◇		
	熱貫流率	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					◇			
	可視光線透過率	○	○	○	○	△	△	△			△	△							○	◇		
	可視光線反射率																		○	◇		
	日射透過率	○	○	○	○	△	△	△	◇	△	△	◎	◎	△					◎	◇		
	日射反射率	○	○	○	○	△	△	△	◎(内/外)	△	△	◎(内/外)	◎(内/外)	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	
	明度								◎(内/外)			◎(内/外)	◎(内/外)		◎	◎	◎	◎				
	垂直放射率	(△)	(△)	(△)	(△)	(△)	(△)	(△)											◎	◇		
	修正放射率(長波放射率)								◎	△	△	◎	◎						◎	◇		
	※耐候性試験・屋外暴露試験との関係		前	後	前	後	—	前	後	—	前	後	—	—	—	前	後	—	前	後		
基本性能 (保水性建材の熱・水分・湿気物性)	保水性																		◎	◎		
	吸水性																		◎			
	蒸発性																		◎	◎		
	熱伝導率(絶乾・湿潤の2水準)																		○			
	日射反射率(絶乾・湿潤の2水準)																		○			
	比熱																		○			
	※耐候性試験・屋外暴露試験との関係																		前	後		
数値計算	冷房負荷低減効果(8月)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	冷房負荷低減効果(6~9月)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	室温上昇抑制効果(自然室温・体感温度)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	屋根(屋上)表面温度低下量																		◎	◎		
	昼間の対流顕熱低減効果(夏季1ヶ月)																		◎			
	昼間の対流顕熱低減効果(夏季6~9月)																		◎			
	夜間の対流顕熱低減効果(夏季1ヶ月)																		◎			
	夜間の対流顕熱低減効果(夏季6~9月)																		◎			
	暖房負荷低減効果(2月)	○	○	○	○	○	○	○	○										○	○		
	暖房負荷低減効果(11~4月)																		○	○		
	冷房負荷低減効果(年間空調)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	暖房負荷低減効果(年間空調)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	冷暖房負荷低減効果(期間空調)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	冷暖房負荷低減効果(年間空調)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	対流顕熱低減効果(設定期間中)																			◎		
対象建物(※2)		住	才	住	才	住	才	住	才	住	才	住	才	住	才	住	才	工(GW)	工(XPS)	住	※1	
対象建物の対象部位(※3)		p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	p	a	
環境負荷・維持管理等性能	性能劣化の把握(促進耐候性試験)		◎		◎			◎			◎										◇	
	性能劣化の把握(屋外暴露試験)																		◎	◎	◎	◎
	付着性試験																		○			
	露点温度								○													◇

※1:保水性建材の対策効果の数値計算は、建物内の空調負荷低減を考慮しないものとして実施する(対象のモデルは、建物の屋上面とする)。
 ※2:対象建物の凡例:住;戸建て住宅(木造)、才;オフィス、工(GW);工場モデル(屋根断熱材:グラスウール)、工(XPS);工場モデル(屋根断熱材:押出法ポリスチレンフォーム保温材)
 ※3:対象建物の対象部位凡例:p;1部分を対象として計算、a;建築物全体又はフロア全体を対象として計算